

Shake Hands

常滑国際交流協会

第102号 2014年5月7日発行

〒479-0837 常滑市新開町5-58 常滑商工会議所内
 電話・FAX：0569-34-4797 メール：tia@japan-net.ne.jp
 ホームページ：<http://www.japan-net.ne.jp/~tia/>



平成26年度常滑国際交流協会総会の開催のご案内

新緑の候、会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃は、常滑国際交流協会の活動に格別のご支援を賜り、有難く厚くお礼申し上げます。

さて、下記により平成26年度の常滑国際交流協会の総会を開催致したく、ご多忙中とは存じますが、ぜひご出席賜りますようご案内申し上げます。

記

1. 日時 平成26年5月17日（土） 午前10時30分より
2. 会場 常滑市 陶の森資料館
3. 審議事項 (1) 第1号議案 平成25年度事業報告及び会計報告承認の件
(2) 第2号議案 平成26年度事業計画案及び予算案承認の件
4. 来賓挨拶
5. 総会催事 交流懇談会

東ティモールの高校生が常滑でホームステイしました。

4月26日（土）外務省事業JENESYS2.0で来日の18名の高校生が常滑で1泊のホームステイしました。ホストファミリーは14家族。翌日の午後ホストファミリーとの別れを惜しみながら常滑を後にしました。JENESYS2.0と今回の高校生等の招聘事業そして東ティモールについての詳細は次ページをご覧ください。



写真は4月26日午後出迎えのホストファミリーとの記念撮影。

JENESYS2.0とは (外務省のwebサイトから)

2013年1月18日、インドネシア訪問中の安倍総理が、2007年から実施したJENESYSの後継として、3万人規模でアジア大洋州諸国との間で青少年交流事業「JENESYS2.0」を実施することを発表。この事業は、日本経済の再生に向けて、我が国に対する潜在的な関心を増進させ、日本を訪れる外国人の増加を図ると共に、クールジャパンを含めた我が国の強みや魅力等の日本ブランド、日本的な「価値」への国際理解を増進させることを目指している。

東ティモールの高校生のホームステイ

- 1 4月22日から5月1日まで、JENESYS2.0一環として、市民社会活動をテーマに東ティモールから高校生・大学生・若手社会人約50名が来日。
- 2 一行は、来日中、2つのグループに分かれ、東京都内、愛知県、広島県を訪問し、広島平和記念資料館をはじめとする歴史・文化関連施設や地元企業を視察し、同年代の日本人学生との交流や各種文化体験を行います。
- 3 今回の交流事業を通じて、東ティモールの青少年が、我が国の強みや魅力、日本的な「価値」に関する理解と関心を深め、一人一人が日本の魅力の積極的な発信者となることが期待されます。

東ティモール民主共和国 (ウィキペディアから)

通称東ティモールは、アジア（東南アジア）地域に位置する共和制国家。1999年8月30日、国連主導の住民投票によりインドネシアの占領から解放され、2002年5月20日独立した。国際法上はポルトガルから独立したことになる。21世紀最初の独立国。ポルトガル語諸国共同体加盟国。



島国であり、小スンダ列島にあるティモール島の東半分とアタウロ島、ジャコ島、飛地オエクシで構成されている。南方には、ティモール海を挟んでオーストラリアがあり、それ以外はインドネシア領東ヌサ・トゥンガラ州（西ティモールを含む）である。首都ディリ（最大の都市）、面積面積 15,007km²、人口 1,133,000人、GDP（自国通貨表示）4億9900万アメリカ合衆国ドル、GDP（MER）4億9900万ドル、GDP（PPP）25億ドル 1人あたり 2,364ドル、通貨 アメリカ合衆国ドル（USD）

民族 住民はメラネシア人が大部分である。その他華僑（客家）、印僑（インド系移民）、ハーフカスト（ポルトガル人とメラネシア人の混血）、ごく少数のカーボベルデなどアフリカ系の移民などが存在する。

言語 言語はテトゥン語とポルトガル語が公用語である。現在は、マカサエ語やファタルク語などのパプア系語とテトゥン語やマンバイ語などのオーストロネシア系系が中心に話されている。その他、インドネシア統治期に教育を受けた30-40歳代を中心にインドネシア語が使われている。現在は世代間で使用できる言語が異なっている事が問題となっている。東ティモールは独立時の2002年からポルトガル語諸国共同体(CPLP)に加盟している。

宗教 宗教はキリスト教が99.1%（その大半がローマ・カトリック、他にプロテスタント諸派）。アジアではフィリピンと大韓民国と同等のキリスト教国。残りはイスラム教が0.7%、その他ヒन्दゥー教、仏教、アニミズムなどとなっている。インドネシア統治時代の1992年推計ではイスラム教徒が人口の4%を占めていたとされるが、独立によりインドネシア政府の公務員などが東ティモールから退去し、イスラム教徒の比率は大幅に低下した。一方、独立運動を精神面で支え続けたカトリック教会への信頼は高まった。



マレーシア受入事業を終えて

三和小学校国際交流委員会 委員長 菅 勝成

平成25年11月15日から12月5日までの3週間、マレーシアのSKRM小学校と交流活動を行いました。6年ぶりの受入事業でした。

ホストファミリーのみなさんは、それぞれ苦勞をしながらも楽しむことができました。それぞれが、普段ではありえない経験をたくさんしました。そこで、この経験をどう活かすべきか考えてみます。

同じ体験をしても人によって得られるものが異なることがあります。今回、ホストファミリーを経験した家庭でも、コミュニケーション、食事などずいぶん悩んだ家庭もあれば、あまり気にならなかった家庭もありました。

このようなとき、うまくいったことは自信になります。言葉が通じなくてもなんとかあった、という経験は度胸となり外国人コンプレックスを解消するものとなります。伝えたいことを伝えられず、聞きたいことを聞き出せなかった、という経験は、もっと英語を勉強しようとする向上心につながります。作った食事を食べてもらえなかった家庭は、どうしたら食べてくれるのか悩み、マレーシアの食文化を調べました。その結果、その国の

ことをよく知ることになりました。そして、楽しかったという経験が、またチャレンジしようというやる気につながります。

うまくいったこと、うまくいかなかったこと、いろいろ感じたと思いますが、どう考えどう活かすかでこの体験の価値が大きく変わると考えます。大人のリードで、子供たちがぐんぐん伸びることを期待しています。

今回の受入事業をするにあたり、多くの方たちのご協力をいただきました。

ろくろ体験に協力いただいた陶芸家の土平さんと常滑西小学校。絵付け体験は常滑高校と都築先生。常滑南保育園と大和幼稚園では、園児が派遣団を歓迎しました。青海中学校では、授業に参加しました。

ドッジボール大会を主催したPTAのみなさん。雪見トリップを企画した井上先生。通訳をした都築明美さん。バックアップをしてくれたTSIEのみなさん。杉山校長をはじめとして常に協力していただいた三和小学校教員のみなさん。みなさんの協力のおかげでこの受入事業を成功に導くことができました。これでまた来年の派遣事業が楽しみになりました。



ポーランドだより

肥田剛治

当協会会員の肥田剛治さんは昨年9月からポーランドのジェローナグラの大学で日本語を教えておられます。肥田さんのポーランドでの講師は3回目。肥田さんのポーランドだよりを掲載致します。

食べられるか？

2014年04月17日

キリスト教世界では、最大のイベント「イースター」。といっても、日本おじさんには馴染のないイベント。だが、ここで授業をしていると、全く関係ないというわけにもいかない。子供たちはすでに学校が休みになっているようだし、休みになっていないはずの大学は、自主的？に休みに・・・

休暇を利用して旅行に出かけるので授業に出られない・・・という受講者もいれば、病気で出られないものも目立ち・・・今週は、今夜（木曜）の授業はやめにした。昨夜がイースター前の授業おさめ。

学生たちからの思いがけないプレゼントがあった。



大きなバスケットにおさまりきれないほどの・・・片手では持てないほどの・・・中を覗いて見ると、ウサギが7匹、羊が1匹。タマゴ（食べられないのも含む）5コ。大判板チョコが3枚、高級そうなチョコ3箱、チョコ菓子が3つ。パブカ（おばあちゃん？）2個。他に、ウオッカ1本、ソーセージ2パック、魚漬げやらスープの素・・・はたして、食べられるか？とにかく、賞味期限のありそうなものから・・・

ウロウロ、ヴロツワフ

2014年04月28日

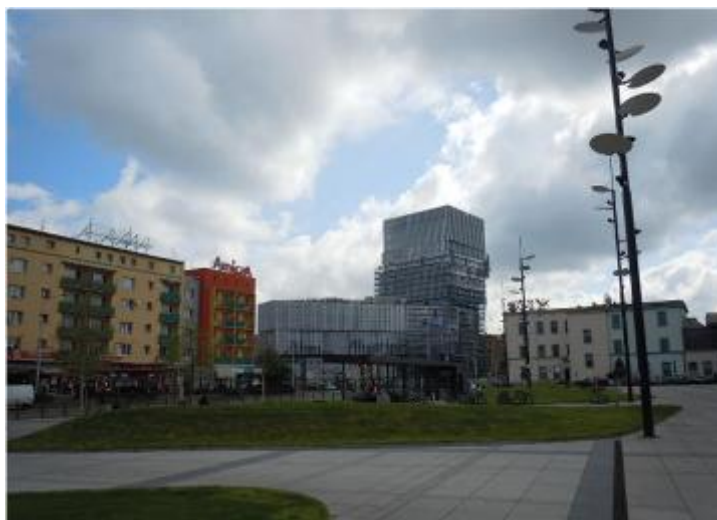
先週末、急遽、ヴロツワフへ。5年前ヴロツワフから、わがポーランドは始まった。だから、何度か訪れているが、なつかしいのである。人口は、約70万人。やはり人が多い、活気を感じる。観光客も目につく。



広場を観光客を乗せた馬車が・・・



大聖堂の前ではなんと、日本からの団体さんがいた。5年前と比べると、街のあちこちに変化が。きれいに整備されたところが多い。大きな工事現場があちこちにあって、活気を感じさせてくれる。ジェロナグラではあまり見かけない・・・



駅からすぐのところ、大きな建物の建設が進んでいた。



日本庭園も覗いてきた。